

コニカミノルタ株式会社

2022 年（令和4年）3月期 第3四半期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2022年2月1日（火）18:00 ～ 19:00

方 式： オンライン／テレフォンカンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【全社業績に関して】

Q: 2Q 決算説明会の資料（P.19）のなかで、3Q 決算時に22年度見直しへの影響アップデートと、デジタルワークプレイス（DW）事業のダウンサイドリスクへの対応策について紹介するとされていますが、何かあれば教えてください。また、経営方針説明会についても日程等のアップデートがあれば教えてください。

A: 最新の事業環境・競争環境を考慮し、来期に向けた計画を策定中です。また、半導体供給不足の影響が来期も続くダウンサイドに対する対応策については、構造改革の具体的な地域や規模感について詳細を検討しています。インダストリー事業については事業説明会という形で既にご説明をしていますが、DW、プロフェッショナルプリント（PP）、ヘルスケア（HC）事業を含めた全体の進め方や、事業ポートフォリオ転換についてご説明する機会を設けたいと考えています。この件についてはタイミングが決まり次第、改めてご案内します。

Q: ポートフォリオ転換に関する費用は発生しましたか？

A: ポートフォリオ転換に関する費用については、3Qで15億円発生しました。通期の見通しとしては、約30億円で見えています。4Qでは5億円程度の見込みです。

【事業に関して】

Q: 年間計画のDWの4Q売上・利益の回復は、売上高がQoQで300億円、営業利益で200億円増加となりますが、正しいでしょうか。

ノンハードの売上は急に増加はしないと思いますが、外部調達していたものを自社製に戻すことにより粗利率が急回復し増益となるなどの理由があるのでしょうか。また、ハードについては、要因が物流の制約であることを考えると回復は難しそうですが、レジリエンスはあるのでしょうか。

A: DWのQoQの売上高と営業利益の増加はご認識の通りです。ハードの増収要因としては、3Qで半導体供給不足の影響を受けている中でも、当初の計画よりも生産量は増えており、生産地から前手繰りで出荷しています。洋上期間が長くなった影響でこの生産量の増加は3Qの売上には寄与しませんでした。4Qに貢献します。更に一部の受注残については航空輸送も含めて4Qでの生産分を売上につなげます。ノンハードは、自社生産トナーに加えて第三者で生産したトナーの活用は継続しますが、当初の見立てよりもコストダウンができています。

Q: 4Qのノンハードの前提について、オフィスとプロダクションプリントに分けて、工場事故の影響も含めて教えてください。

A: 2Qは19年度比で82%まで回復しています。3Qは当社トナー工場事故の影響で販売活動を控えたことも影響し受注は82%でしたが、実需は86%ぐらいまで回復してきていると見えています。4Qはオフィスへの戻りを期待したいですが、現時点では19年度比で86%まで回復するという前提を据え置いています。プロダクションプリントについては、2Qに19年度比で88%まで戻りましたが、3Qでは欧州でのオミクロン株の影響で伸び悩み、85%程度に留まりました。4Qはこの延長線上で86%までの回復と、比較的保守的に見えています。

Q: オフィスについては物流リードタイムの長期化により供給不足が生じることで下方修正をしていると理解していますが、この影響はプロダクションプリントにはあまり影響していないという理解で良いのでしょうか。

A: 3Qでプロダクションプリントが想定より上振れたのは、2Qまでに生産した販売会社の手元在庫を十分に生かしたことで、物流長期化の影響を受けなかったためです。

以上